

特集
2

農業をはじめよう！

～就農前から就農後まで手厚くサポートします～

JA管内で生産される米・園芸作物・畜産物は、消費地からの引き合いは高く、数量拡大の要望が高まっています。JAでは担い手経営体の育成強化はもとより、新規就農ワンストップ相談窓口・農業求人サイトの利活用などにより新規就農者を募集し、農業生産基盤・農業経営の維持拡大を目指し生産販売体制の強化を図っています。

一関地方トータルサポートシステム

就農相談

研修

就農

岩手県や一関市、平泉町、JAなどで構成する「一関地方農林業振興協議会」は、新規就農者の相談をワンストップ体制で受け、実践研修や就農に必要な施設整備などを一体的にサポートしています。

◎新規就農ワンストップ相談窓口

毎月第2水曜日に開設しています。農業で自立したい方、農業法人などで雇用就農しようとする方、新規で就農を目指す方に、各種研修や助成事業、支援制度の紹介など、関係機関・団体できめ細やかに対応します。

- ・相談日 毎月第2水曜日 1人当たり1時間程度
- ・相談申込 相談日の5日前までに関係機関にご連絡ください。

一関市農政課 および各支所産業建設課	TEL 21-8225
平泉町農林振興課	TEL 46-5564
一関農林振興センター	TEL 26-1413
一関農業改良普及センター	TEL 52-4961
JA営農振興課	TEL 34-4001

◎研修制度

- ・研修受入経営体のもとで実践研修
先進農家・農業法人・JA(生産部会)・集落営農組織
- ・座学研修
県立農業大学校新規就農者研修・JA部会指導会参加
普及センター等研修会参加・量販店フェア参加

◎就農計画の作成・認定

- ・青年等就農計画を作成し、市町に認定を申請します。
- ・計画が認定されると「認定新規就農者」となり、さまざまなメリット措置を受けることができます。

◎就農後も手厚い支援

※TACが定期的(月1回程度)に訪問する他、一関農業改良普及センターやJAの園芸・畜産担当者の訪問指導があります。制度の情報提供や技術指導など、必要に応じて関係機関と連携しています。



※TACは地域農業の担い手に向くJA担当者

就農するための支援があります

一関市、平泉町では、新規就農する方の研修や家賃などを支援しています。

一関市

◎新規学卒者等就農促進支援事業

対象者: 研修を開始する日の年齢が49歳以下で、一関市内に就農を希望する方
期間: 新規学卒者は2年以内、その他は1年以内

◎いちのせき新規就農者家賃補助金

対象者: 一関市内に転入後2年を経過しない方で、市が認定する農業研修に取り組んでいる方
または認定新規就農者
支援内容: 家賃の半額(上限2万円/月)
支援期間: 最長2年間

平泉町

◎平泉町新規就農者支援事業

対象者: 平泉町内に住所を有する18歳~60歳の方で、認定を受け、新たに就農する方
受入農業経営体等で月8日以上研修を受け、研修期間が6カ月以上の方
事業終了後、町内で2年以上居住するとともに就農できる方
支援内容: 研修支援金 5万円/月
住居費支援金 家賃の1/2以内(上限2万円)
支援期間: 2年以内

※詳細は、一関市、平泉町へお問い合わせください。

国の支援策

☆新規就農者育成総合対策

1. 経営発展支援事業(機械・施設、家畜導入、果樹・茶改植、リース料等が対象)

対象者: 認定新規就農者(就農時49歳以下)
支援額: 補助対象事業費上限1,000万円(2の交付対象者は上限500万円)
補助率: 県支援分の2倍を国が支援(国の補助上限1/2、〈例〉国1/2、県1/4、本人1/4)

2. 経営開始資金

対象者: 認定新規就農者(就農時49歳以下、前年の世帯所得が原則600万円未満等の者が対象)
支援額: 12.5万円/月(150万円/年)×最長3年間
補助率: 国10/10

Q: 農業を始めたきっかけは?

A: 全国に転勤がある東京の会社で働いていましたが、2人目の子どもが生まれ、上の子どもが小学校に入学する前に子どもたちに実家を作ってあげたいと思うようになりました。農業をしていた祖父を見て農業に可能性を感じ、帰郷し就農することを決めました。

Q: 就農までの準備はどのようにしましたか?

A: 新規就農ワンストップ相談窓口で相談し、帰郷後すぐ研修生としてトマト農家で1年間研修しました。トマト部会の指導会や担い手班の巡回、県立農業大学校の研修に参加しました。就農前から部会員とのつながりができ、県内の農業者と交流することができました。

Q: 実際農業に取り組んでみてどうでしたか?

A: 手をかければかけた分、収量や品質に跳ね返ってくることを実感しています。忙しい時期は早朝から夜遅くまでハウスにいますが、時間に制約されることがなく、トマト栽培をやって良かったと思っています。

Q: 今後の意気込みを教えてください。

A: 反収20トンの目標に向けて取り組み、毎年、安定して収穫できるようにしていきたいです。

Q: 就農を考えている方に一言

A: 自分の努力次第で結果が大きく変わるので、やりがいを感じることができます。資金面や技術面で不安も多いと思いますが、関係機関や部会の先輩方からも手厚いサポートが受けられるので、ぜひ、ワンストップで相談してみてください。一緒に一関地方の農業を盛り上げていきましょう!

新規就農者の声



高橋 龍祐さん(29)
一関市赤荻
令和2年就農
トマト(ハウス)10a

